

はじめに

農林水産消費安全技術センター（FAMIC）は、農林水産省所管の独立行政法人であり、主な業務部門として、食品部門、肥料・飼料部門、農薬部門の3つの部門を有し、JAS法、肥料取締法、飼料安全法、農薬取締法等の法律に基づく食品、飼料、肥料等の品質の検査および農薬の登録検査等の業務を行っています。

農薬の製造者または輸入者は、農林水産大臣の登録を受けなければ、農薬の製造、加工、輸入等を行うことができないことになっていますが、FAMIC農薬検査部は、この農薬管理の要である農薬登録検査を主たる業務としています。また、農林水産省と連携し、全国から計画的に収集した農産物中の農薬の残留状況についても分析調査を行っています。

今般、平成26年度の農薬検査部における調査研究成果を収録した農薬調査研究報告第7号を発行しました。一昨年度から農薬検査部では、調査研究の対象を実験を伴うもののみならず、農薬のリスク評価・管理、諸外国の農薬登録制度等に関する文献や現地調査等により収集した情報を分析・考察する調査や論考についても対象に位置付け、より多くの職員が調査研究に取り組める仕組みにしました。今号は、その新たな取り組み開始から3号目の報告書となります。内容も実験を伴うものと調査や論考等の割合が安定しつつあり、新たな取り組みが定着してきたものと自負しております。

本報告書が関係者の皆様の業務において参考になれば幸いです。なお、各方面からのご意見等も我々の調査研究の充実のためには不可欠ですので、お気づきの点がありましたら、ご連絡いただきたくお願い申し上げます。

平成28年2月

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
理事長 木村 真人

目 次

欧米および国際機関における農薬の有効成分（原体）の規格設定方法に関する調査 荒巻敦史	1
FT-IR を用いた集取農薬と農薬見本の同等性の確認 渡辺高志, 塚田勇輝, 岡安弘之	17
カナダおよびオーストラリアにおける薬効および薬害に関する要求事項ならびにマイナー 使用対策の状況 佐々木千潮, 佐々木詩織	54
農薬の作物残留濃度に大きな影響を与える初期付着量および作物生長に関する研究の状況 について 末永和也, 坂部亮介, 松野倫也, 池田淳一, 早川泰弘	62
農薬の水産動植物に対する生態リスク評価のための高次試験法に関する文献調査 石原悟	72
農薬ラベルの記載内容等に関する日本, 米国およびEU の比較 中野渡高之, 荻野知美, 上野敬規	82
検量線に関わる理論と評価方法について 北村恭朗	101
Effects of organic carbon quality on the sorption behavior of pesticides in Japanese soils (Journal of Pesticide Science, 2014, 39(2), pp 105-114) Yutaka Motoki, Takashi Iwafune, Nobuyasu Seike, Takashi Otani and Maki Asano	107

平成26年度学会等での発表実績一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 1 7

【技術レポート】

残留農薬分析業務における分析法の検討1

ペンチオピラド試験法の導入のための妥当性検証

加藤直樹，守山智章，鈴木徹也，山田篤司，青山吉一，臼井裕一・・・・・・・・ 1 2 0

残留農薬分析業務における分析法の検討2

一斉試験法（米穀）における調査対象農薬追加のための妥当性検証

青山吉一，臼井裕一，加藤直樹，守山智章，鈴木徹也，山田篤司・・・・・・・・ 1 2 5